



▲摩気神社に訪れる参加者

3月4日から12日にかけて、南丹市内の名所を舞台に謎解きを行い、観光客を呼び込もうと「謎解きゲーム in なんたん！」を開催しました。参加者はスマートフォンを片手に、画面に表示されるヒントを得ながら謎を解いていくゲームと「まち歩き」が一体となったイベントを楽しみました。

自家用車やバイクでの参加のほか、5日にはバスツアーも行われ、約800人が参加。出題される難問に立ち向かいながらも、景色や料理を堪能する参加者の姿がありました。

3 / 4 / 12 謎解きゲーム in なんたん！

「スマホ片手に市内各地で謎解き！」

美山町の振興会の「これまで」と「これから」、そして「美山町の未来」について考える「美山まちづくりのつどい2017」が、美山文化ホールで開催されました。各地域振興会から、16年間の活動を通じた、特色ある地域づくりの取り組みやこれからの展望について発表。また、意見交換では「これからのまちづくりを伸展させるため、各振興会の点の活動を情報共有し、線や面の活動にすることが必要」との意見もあがりました。



▲発表する知井振興会河野賢司事務局長

2 / 19 美山まちづくりのつどい2017

「美山地域のまちづくりを考える」

「拉致の話から学ぶ人権の大切さ」

2 / 26 南丹市人権教育・啓発推進協議会発足10周年記念講演会



▲拉致問題について熱弁する蓮池氏

2月26日、南丹市人権教育・啓発推進協議会発足10周年を記念して、蓮池 薫 氏を講師に人権講演会を開催しました。

蓮池氏は1978年に北朝鮮に拉致されてから24年もの間、北朝鮮での生活を余儀なくされました。講演では「帰国して得られた幸せを噛みしめるほど、未だ残された人を一日でも早く取り戻したい」と話され、24年におよぶ波瀾万丈な生活や拉致問題、北朝鮮をとりまく情勢などについて話されました。

「介護をする人も健康管理に注意」

3 / 23 南丹市家族介護者交流事業

3月23日、在宅で寝たきりや認知症の高齢者を介護する家族を対象に、南丹市家族介護者交流事業を国際交流会館で行いました。

第1部の交流会では、参加者は食事をしながら、同じ介護者だからこそ理解できる悩みや相談などを通じて、思いや情報を共有しました。

また第2部では、フリーアナウンサーの久田直子氏を招き講演。介護者自身の健康意識が低いことやうつ病になりやすいことを指摘し、一人で悩みを抱えないことや日常生活で行える対処法を伝授されました。



▲介護者自身の健康について語る久田氏